

令和2年度

**新型コロナウイルス感染症による
「子供への影響実態調査」報告書**

令和3年4月

岡崎市教育委員会

はじめに

春まだ浅い令和2年2月末、文部科学大臣が、全国の小中学校と高校、特別支援学校に臨時休校を要請しました。それに伴い、岡崎市は、市内全小中学校を3月2日から春休みまでの期間休校することを決めました。全国の小中学校の一斉の臨時休校は、明治の学校教育制度の開始以降初めてのことであり、卒業式を控えていた各小中学校は、大混乱に陥りました。4月には、首都圏を中心に緊急事態宣言が発令され、愛知県を含む全国13都道府県へと拡大されました。その結果、小中学校の臨時休校は、約3か月に及びました。

休校中、子供たちの生活は一変しました。これまでのように友達と遊んだり、勉強したりできなくなったことで、ゲームやSNSに関わる時間が増えるなど、生活のリズムを崩す子供たちがいました。

また、学校が再開してからも、これまでと同じような学校生活を送ることができず、学校生活に困難を感じる子供たちもいました。安全な授業形態や給食のとり方、行事・部活動の制限は、子供たちにとって楽しいはずの学校を緊張感に包まれたものへと変えてしまいました。

本調査は、新型コロナウイルスによる、子供たちや保護者、教職員が受けた影響の内容や有無、大きさを把握するために実施したものです。調査対象を児童生徒、保護者、教職員とし、調査内容を臨時休業中、学校再開後、現在の時期（2月中旬）における不安や心の変化等としました。

また、調査を実施する際は、児童生徒は岡崎版GIGAスクール構想で配備したタブレット端末を活用しました。保護者は、QRコードから容易にアクセスできるようにし、スマートフォンやパソコンから回答しました。さらにマイクロソフトのフォームズを活用して、回答と同時に結果を集約してグラフにまとめるなど、ICTの利点を生かして短期間で行えるようにしました。

本調査を実施するにあたり、児童生徒約3200人とその保護者の皆様、そして約200人の教職員からの御協力をいただきました。御協力に対しまして、深く感謝申し上げます。

未だ新型コロナウイルスの終息は見えません。しかし、この調査結果を十分に分析し、子供たちの心のケア、安全な学校づくりに生かしていきたいと考えています。なお、今後、本調査結果等をホームページに掲載していく予定です。多くの方に幅広く閲覧していただき、御意見を賜れば幸いです。

令和3年4月
岡崎市教育委員会

1 調査のねらい

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための措置として実施した臨時休業と、学校再開後から現在に至るまでの児童生徒への影響等について調査し、結果を分析することで、よりよい指導や助言、教育環境整備等に生かす。

2 調査主体

岡崎市教育委員会学校指導課

新型コロナウイルス感染症による「子供への影響実態調査」実行委員会

- ・委員長 教育長
- ・副委員長 教育監
- ・委員 教育相談センター所長 学校指導課長 指導研修係長
- ・現場代表 中学校長代表 小学校長代表 保護者代表
- ・協力 総務課学校情報係

3 調査内容

臨時休業中、学校再開後1～2ヶ月、それ以降から現在に至るまでの3つの時期に分けて、子供、保護者、教師の立場から、主に次のことを聞いた。

- ・3つの時期において、学校生活や家庭生活で何か困ったこと等があったか。
- ・休業中、家庭生活上で何かいいことはあったか。
- ・休業中、家族や友達とのふれあいは増えたか。
- ・休業中、体の調子が悪いことが続いたか。
- ・学校が再開して、やってよかったと思えた行事はあったか。
- ・学校の感染対策は十分だったか。
- ・分散登校の実施や部活動の大会等の開催について、どう思ったか。

4 調査対象

調査は抽出調査とし、全児童生徒数の10分の1程度となるようにして行った。対象を抽出する際には、学校の規模や地域を考慮した。

【小学校】

- ・大規模校（児童195～210名）（教職員10名）×5校…児童1,015名、教職員50名
- ・中規模校（児童170～200名）（教職員10名）×5校…児童910名、教職員50名
- ・小規模校（児童20～160名）（教職員3～5名）×4校…児童280名、教職員18名

【中学校】

- ・大規模校（児童105～110名）（教職員15名）×3校…児童320名、教職員45名
- ・中規模校（児童100～115名）（教職員10名）×4校…児童430名、教職員40名
- ・小規模校（児童60～110名）（教職員5名）×3校…児童265名、教職員15名

【保護者】

- ・対象クラスの保護者（実家庭のため回答数は児童生徒数よりも少数となっている）

5 調査方法

児童生徒…My タブレットから、アンケート作成アプリ「Microsoft Forms」を使って、タブレットの使い方を学びながら回答した。

教職員…教職員に一人1台配付したタブレット端末から、アンケート作成アプリ「Microsoft Forms」を使って回答した。

保護者…スマートフォンからQRコードを読み取り、アンケート作成アプリ「Microsoft Forms」へアクセスして回答した。

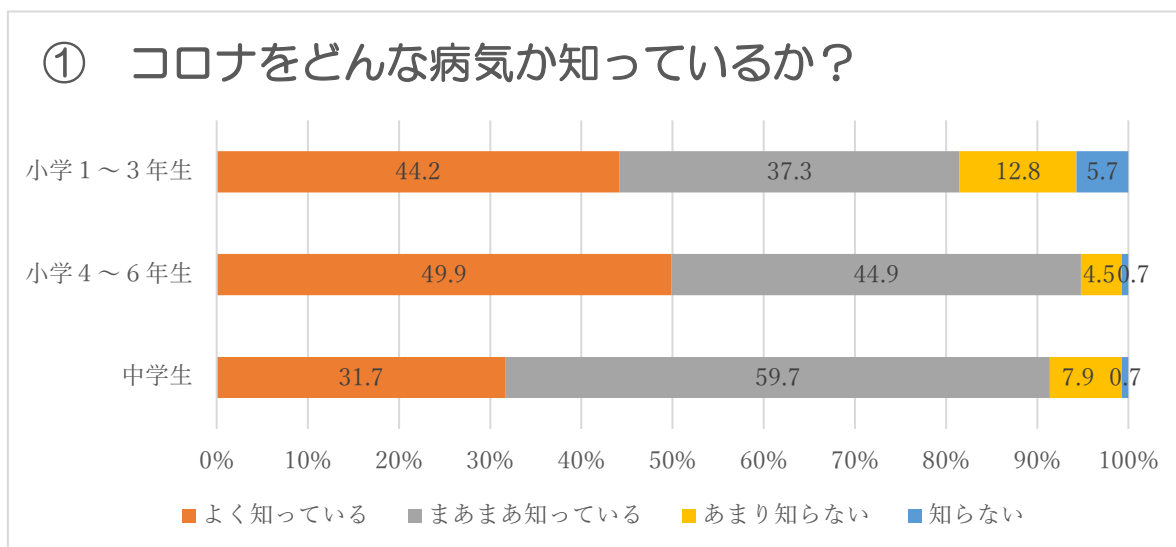
6 調査実施計画

- ・令和2年10月28日 実行委員会の立ち上げ
- 11月 原案（調査内容・対象・方法）の作成
- 12月 原案（調査内容・対象・方法）の検討
- ・令和3年 1月 調査内容・対象・方法の確定、アンケート作成
- 1月29日 各学校へ調査依頼
- 2月12日 回答締め切り、結果の分析開始（報告書の作成）
- 3月 報告書の検討
- 4月 報告書の公表

7 調査の結果

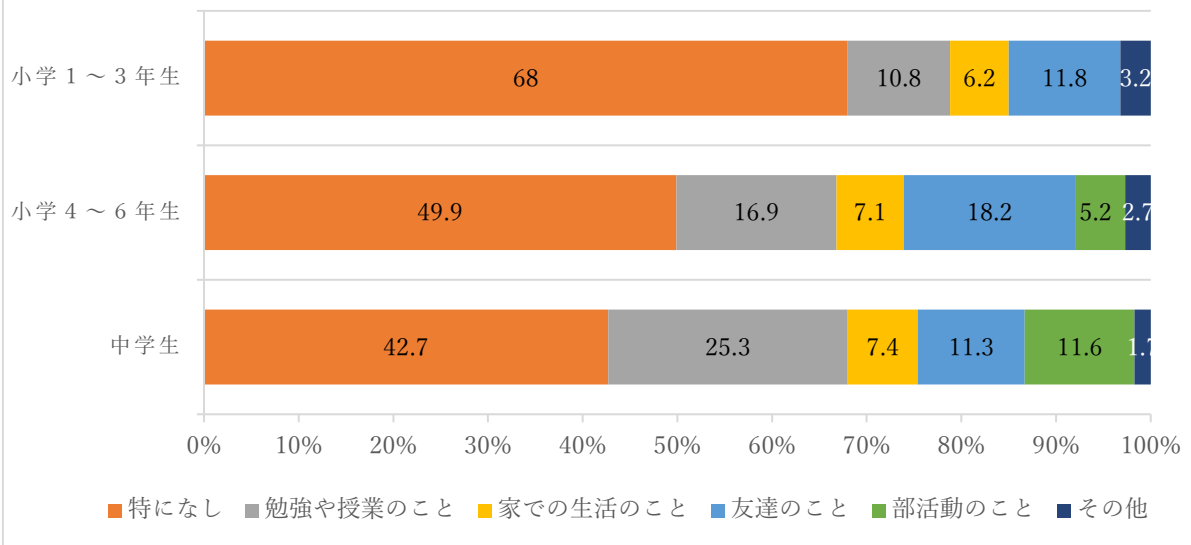
（1）児童生徒調査

有効回答数	①小学1～3年生…	1,087名
	②小学4～6年生…	1,079名
	③中学生……………	826名



・小学1～3年生でも8割を超える子供が「よく知っている」「まあまあ知っている」と回答している。また小学4～6年生や中学生では、その割合は9割を超えている。

② 休業中、特につらいと感じたことは？



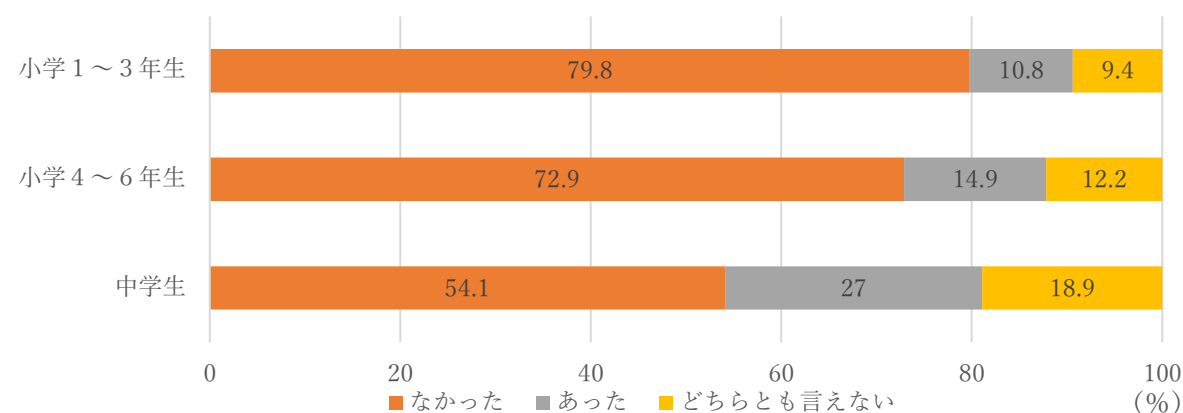
- ・休業中に特につらいと感じたことは何かと聞いたところ、小学1～3年生では、約7割の子供が「特になし」と回答した。一方、学年が上がるにつれて「特になし」と回答した子供の割合は減少し、小学4～6年生では「勉強や授業」「友達」、中学生では「勉強や授業」の割合がさらに増加するとともに、「部活動」についてもつらさを感じていた。

③ どのようにしてつらさを解消したのか？

調査対象	小学1～3年生	小学4～6年生	中学生
回答者数	1087	1079	826
時間とともに解消できた	110	192	163
家族に話をした	80	62	25
友達に話をした	41	30	38
まだ解消されていない	27	48	54
その他	32	50	35

- ・何らかのつらさがあったと回答した子供の多くは、「時間とともに解消できた」と回答している。一方で、調査した時点で「まだ解消されていない」と回答した子供も、一定程度いることも明らかになった。

④ 学校再開後、学校生活で何か困ったことはあったか？



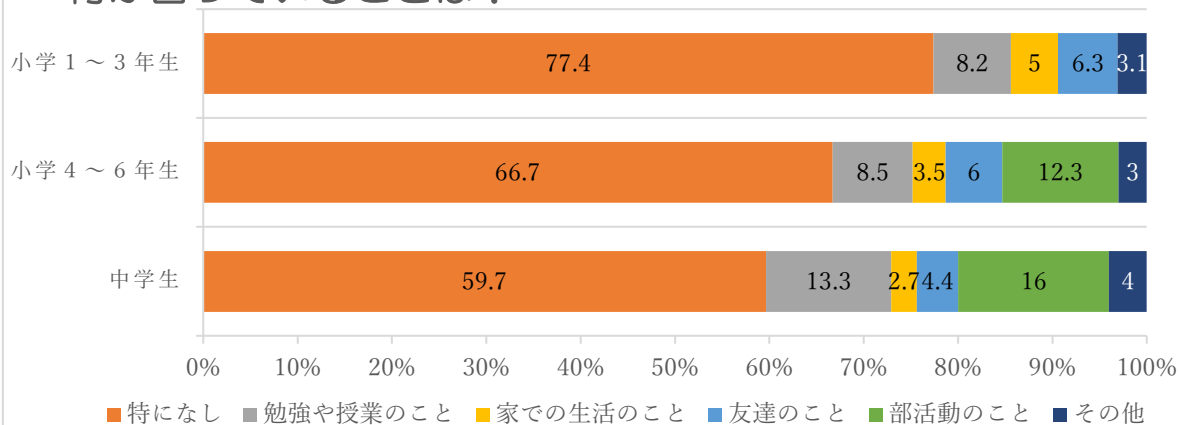
・何か困ったことが「あった」と回答した子供の割合を、休業中と学校が再開してからとを比較すると、小学1～3年生で32%→10.8%、小学4～6年生で50.1%→14.9%、中学生で57.3%→27%と、どの年代も大きく減少している。

⑤ どんな困ったことがあったか？（複数回答）

調査対象	小学1～3年生	小学4～6年生	中学生
回答者数	1087	1079	826
授業の進み具合が早く、1日に覚える量が多い	36	67	116
学校の行事がなくなったりやり方が変更されたりした	43	87	123
友達とゆっくり話をしたり遊んだりできない	44	48	100
先生とゆっくり話をしたり相談したりできない	27	12	14
今までのような授業ができない(グループ学習等)		74	115
部活動の練習が十分にできない		56	97
部活動の大会やコンクールのやり方が変更された		23	91
その他	22	29	32

・学校再開後に困ったことが「あった」と回答した子供に、その内容を聞いたところ、小学1～3年生では「友達とのかかわり」や「学校行事」、小学4～6年生では「学校行事」や「今までのような授業ができない」を挙げる子供が多かった。また、中学生では、「学校行事」や「授業の進み具合」、「今までのような授業ができない」を挙げる子供が多いなど、子供たちは学校生活全般で困り感を抱いていた。

⑥ 今の学校生活において、コロナに関して何か困っていることは？



・困っていることは「特になし」と回答した子供の割合は、小学1～3年生で7割、小学4～6年生で6割を超えた。また中学生でも6割近くあった。「特になし」の割合は、学年が上がるにつれて減少しており、中学校では、その内容として「勉強や授業のこと」「部活動のこと」を挙げている割合が高い。

⑦ 学校再開後、学校生活の中でいいなと思ったことは？（複数回答）

調査対象	小学1～3年生	小学4～6年生	中学生
回答者数	1087	1079	826
友達に会えるようになった	445	682	560
友達と勉強できるようになった	248	258	164
友達と遊ぶことができるようになった	432	618	371
先生と話したり遊んだりできるようになった	245	235	98
学校の行事が楽しかった	281	304	353
部活動ができるようになった		246	265
友達のいいところが見られた		193	155
今までより自分で考えて動けるようになった		175	138
自分たちで考えて学校行事や学級活動を工夫することができた		165	168
その他	110	80	38

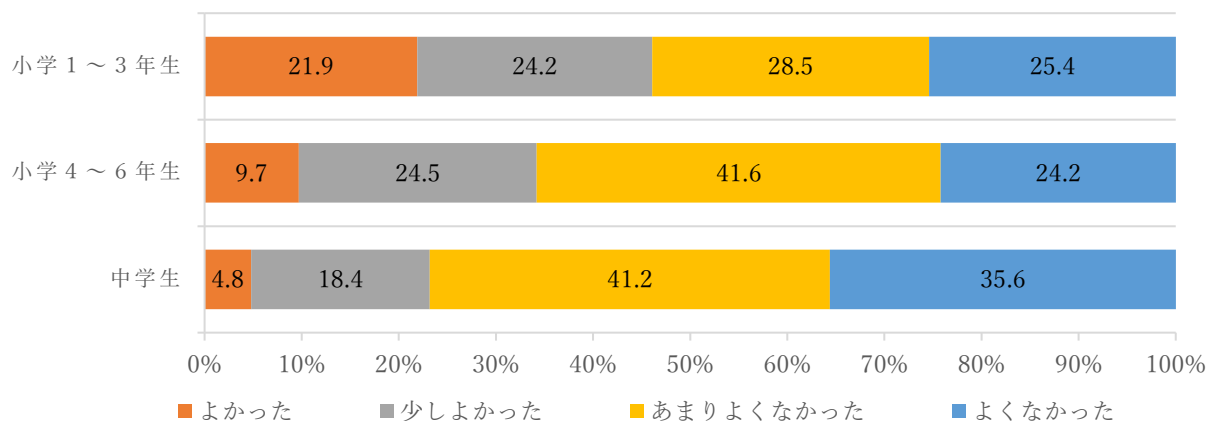
・全ての年代で最も多かったのは「友達と会うことができるようになった」であり、次に多かったのは「友達と遊ぶことができるようになった」であった。「学校行事が楽しかった」と感じた子供を含めて、これらが上位を占めた。

⑧ やってよかったと思えた行事は何か？（複数回答）

調査対象	小学1～3年生	小学4～6年生	中学生
回答者数	1087	1079	826
運動会・体育大会	385	480	561
学芸会・文化祭（合唱コンクール）	69	74	553
授業参観	184	69	10
避難訓練	169	78	26
マラソン大会・長距離継走大会	397	283	249
修学旅行		253	234
部活動の大会・コンクール		130	185
おかざきっ子展		90	23
理科作品展		20	7
社会科作品展		10	3
技術・家庭科作品展			18
その他	177	146	15

- ・小学1～3年生では、「マラソン大会」「運動会」の順に多く、小学4～6年生では、「運動会」「マラソン大会」「修学旅行」の順であった。中学生では、「体育大会」「文化祭」の順に多かった。
- ・対象者が小学6年と中学校3年のみであった「修学旅行」についても、やってよかったと思えた子供の割合は高い。

⑨ 夏休みが短くなってどう思ったか？



- ・学年が上がるにつれ、「よかった」と思った子供の割合は減っている。全体を通して見ても、夏休みが短くなったことについて、肯定的にとらえている子供は半数以下であった。

⑩ 夏休みが短くなり「よかった」と思えた理由は？（複数回答）

調査対象	小学1～3年生	小学4～6年生	中学生
回答者数	1087	1079	826
友達と学校で会う時間が増えた	381	310	148
先生と学校で会う時間が増えた	172	107	31
エアコンが効いた部屋で勉強をすることができた	73	54	31
その他	73	62	43

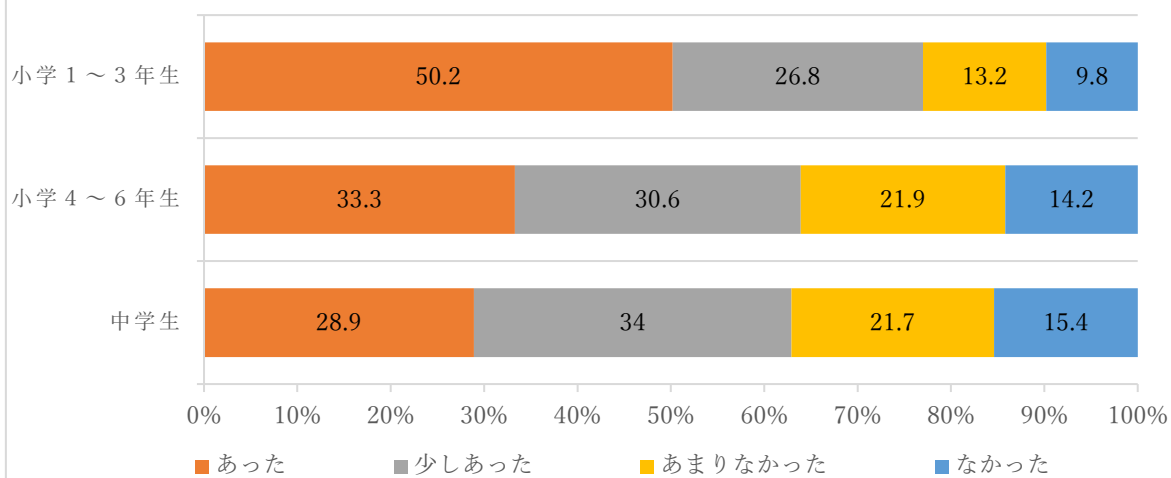
・全ての学年を通して、夏休みが短くなって「よかった」と思えた理由として、「友達と学校で会う時間が増えた」ことを挙げている子供の数が多く、次に多かったのは、「先生と学校で会う時間が増えた」であった。

⑪ 夏休みが短くなり「よくなかった」と思えた理由は？（複数回答）

調査対象	小学1～3年生	小学4～6年生	中学生
回答者数	1087	1079	826
自由な時間が少なくなった	367	527	562
友達と遊ぶ時間が少なくなった	302	307	318
家族と過ごす時間が少なくなった	301	271	177
その他	132	83	46

・全ての学年で、「よくなかった」理由として「自由な時間が少なくなった」ことを挙げている子供が最も多かった。小学1～3年生では、他の学年と比べて「家族と過ごす時間が減った」ことを挙げている子供が多く、中学生では「友達と遊ぶ時間が少なくなった」ことを挙げている子供が多かった。

⑫ 休業中に家庭生活でいいことはあったか？



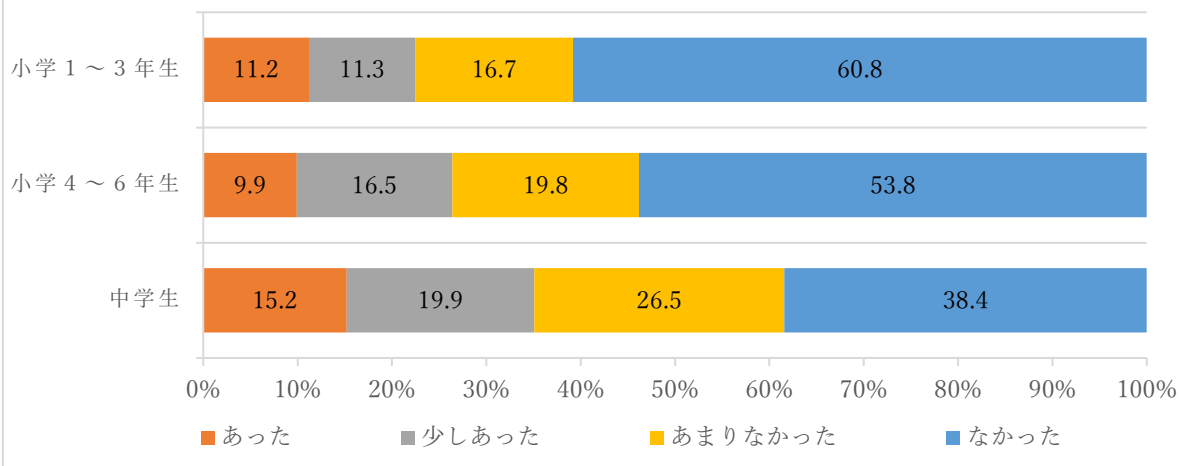
- ・小学1～3年生では、いいことが「あった」「少しあった」と回答した子供の割合は、70%を超えている。
- ・小学4～6年生と中学生とでは、ほぼ同じような割合となり、いいことが「あった」「少しあった」と回答した子供の割合は、いずれも60%を超えた。

⑬ 休業中の家庭生活上、どんないいことがあったか？（複数回答）

調査対象	小学1～3年生	小学4～6年生	中学生
回答者数	1087	1079	826
ゲーム等で遊ぶ時間が増えた	346	290	265
友達と遊ぶ機会が増えた	227	190	116
家族と会話する機会が増えた	420	389	305
自分のやりたい勉強ができた	215	172	150
自分のやりたい習い事に通えた	103	69	38
好きな本を読む時間が増えた	221	231	169
何もしない自由な時間が増えた	218	256	309
その他	111	115	57

- ・小学校では、下学年、上学年ともに「家族と会話する時間が増えた」ことを挙げている子供が最も多く、次に多かったのが「ゲーム等で遊ぶ時間が増えた」であった。3番目は、下学年では「友達と遊ぶ機会が増えた」、上学年では「何もしない自由な時間が増えた」であった。一方、中学生になると、「何もしない自由な時間が増えた」が最も多く、「家族と会話する機会が増えた」とほぼ同じ結果となった。

⑭ 休業中にコロナ以外で不安や悩み・困ったことはあったか？



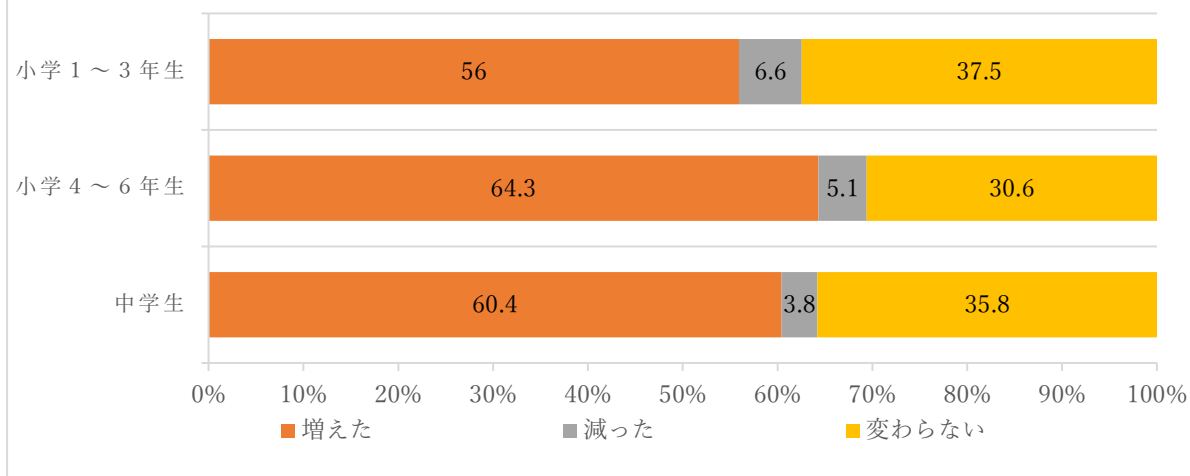
・コロナ以外のことで不安が「あった」「少しあった」と回答した子供は、小学1～3年生で20%強、小学4～6年生で25%強、中学生で35%強であった。この割合は、学年が上がるにつれて増加傾向にあることが分かる。

⑮ 休業中にどんな不安や悩み・困ったことがあったか？(複数回答)

調査対象	小学1～3年生	小学4～6年生	中学生
回答者数	1087	1079	826
思い通りに勉強できないことが多かった	110	107	160
友達と一緒に話をしたり遊んだりできないことが多かった	93	164	155
早寝・早起きがあまりできなかった	90	95	134
趣味や得意なことを十分に生かすことができなかった	42	70	65
食事をとれないことが多かった	21	6	24
メールやラインをすることが多くなった	23	25	60
習い事に十分に通えなかった	42	74	51
その他	47	60	37

・全ての学年で「思い通りに勉強できないことが多かった」「友達と一緒に話をしたり遊んだりできないことが多かった」「早寝・早起きがあまりできなかった」を挙げる子供が上位を占めた。
 ・一部の子供で食事を十分にとれていなかったり、SNSに関する困りごとがあったりしたことが分かった。

⑩ 休業中、家族とのふれあいは増えたか？



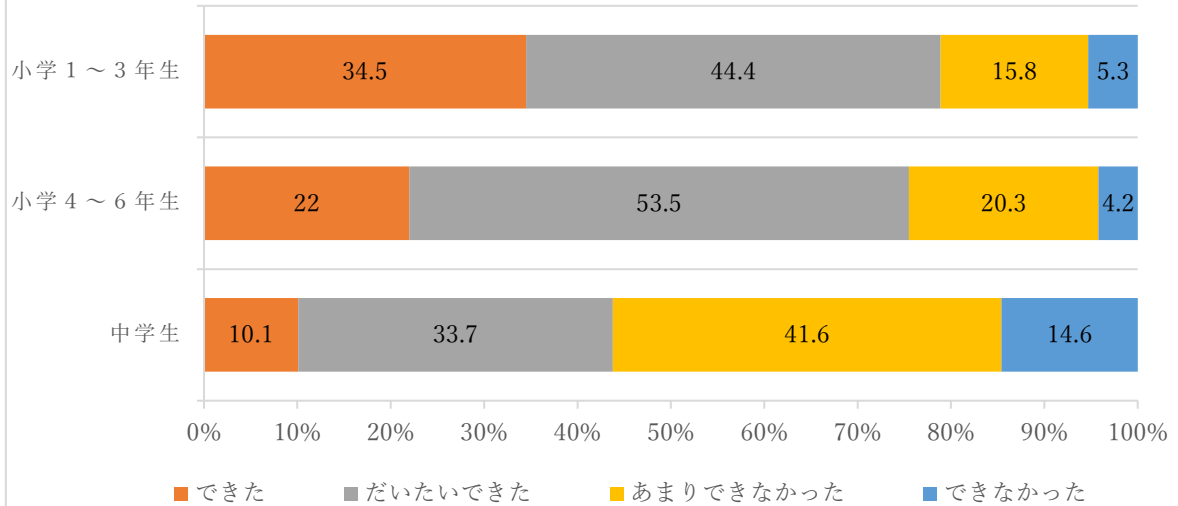
・どの年代でも、半数以上の子供が家族とふれあう機会が「増えた」と回答している。その割合は、小学4～6年生の年代で最も多かった。中学生でも、6割を超える子供が、家族とのふれあいが「増えた」と回答している。

⑪ 休業中、友達とのふれあいは増えたか？（複数回答）

調査対象	小学1～3年生	小学4～6年生	中学生
回答者数	1087	1079	826
友達と会って遊ぶことが増えた	436	269	120
友達と会って遊ぶことは減った	326	507	397
友達とLINE等をするが増えた	84	172	368
変わらない	350	287	188

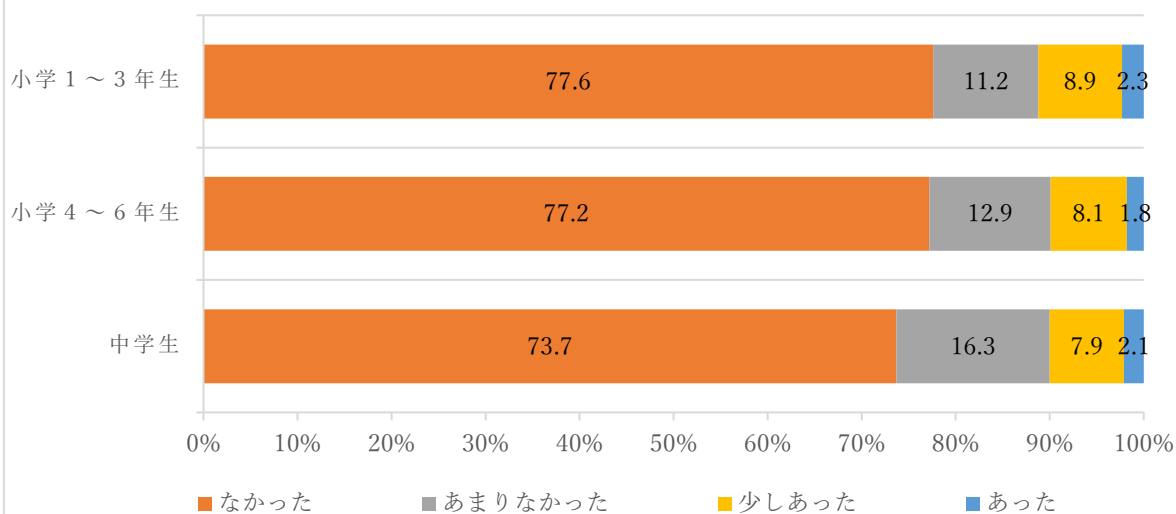
・小学4～6年生と中学生では、「友達と会って遊ぶことは減った」と回答している子供が最も多いのに対し、小学1～3年生では「友達と会って遊ぶことが増えた」と回答している子供が最も多かった。
 ・中学生になると、「友達とLINE等をするが増えた」と回答した子供は、全体の半数近くいた。また、「友達と会って遊ぶことは減った」と「友達とLINE等をするが増えた」と回答した子供が、ほぼ同数の結果となった。

⑱ 休業中、今までよりも自分で計画をして
進んで勉強できたか？



・学年が上がるにつれて、「自分で計画をして進んで勉強できた」と回答した子供の割合は低くなっている。中学生で「できた」と回答した子供の割合は、約1割である。その一方で、「できなかった」「あまりできなかった」と回答した子供の割合は、半数を超えている。

⑱ 休業中、体の調子が悪いことが続いたか？



・休業中に体の調子が悪いことが続いたことが「なかった」と回答した子供の割合は、どの年代も70%を超えた。さらに、「あまりなかった」と回答した子供の割合を合わせると、どの年代も90%を超えている。

⑳ どんな状態が続いたのか？（複数回答）

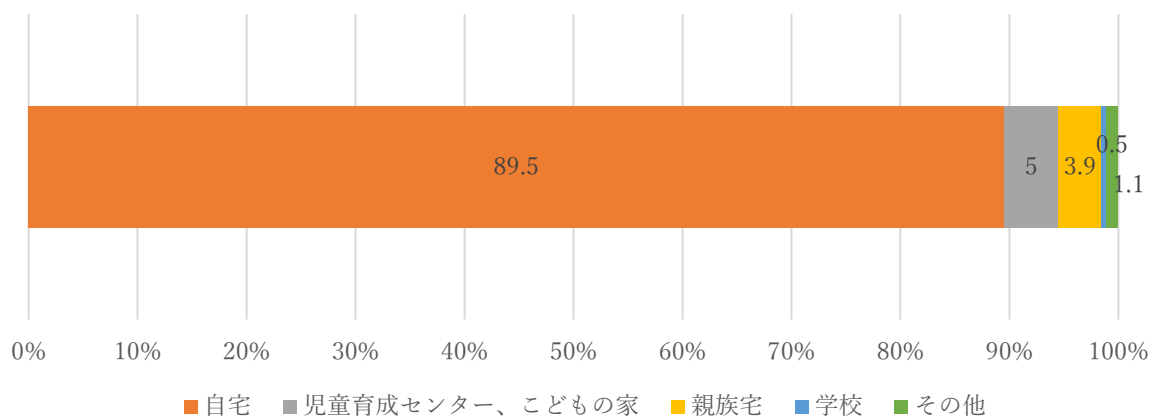
調査対象	小学1～3年生	小学4～6年生	中学生
回答者数	1087	1079	826
頭が痛かった	25	15	22
お腹が痛かった	13	24	14
熱が出た	12	15	6
気持ちが悪かった	21	9	3
ご飯やお菓子を食わなくなかった	5	13	6
体がだるかった	6	10	9
夜、眠ることができなかった	10	7	10
朝、起きることがつらかった	11	6	9
その他	19	8	3

・小中学校ともに「頭が痛かった」「お腹が痛かった」と回答した子供の数が多かった。また、小学1～3年生では「気持ちが悪かった」が多く見られた。小学4～6年生では「熱が出た」と回答した子供が見られた。

(2) 保護者調査

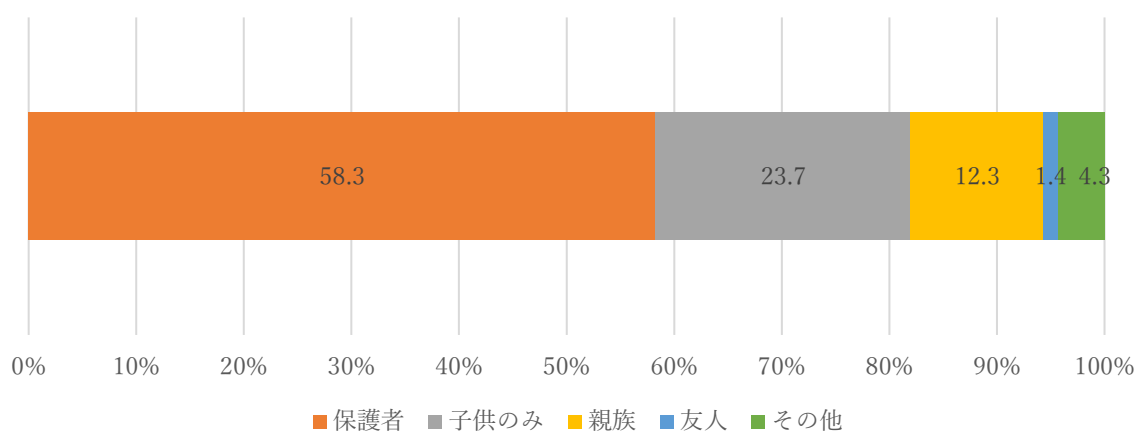
有効回答数 1945名

① 休業中の平日、お子さんは主にどこで過ごしたか？



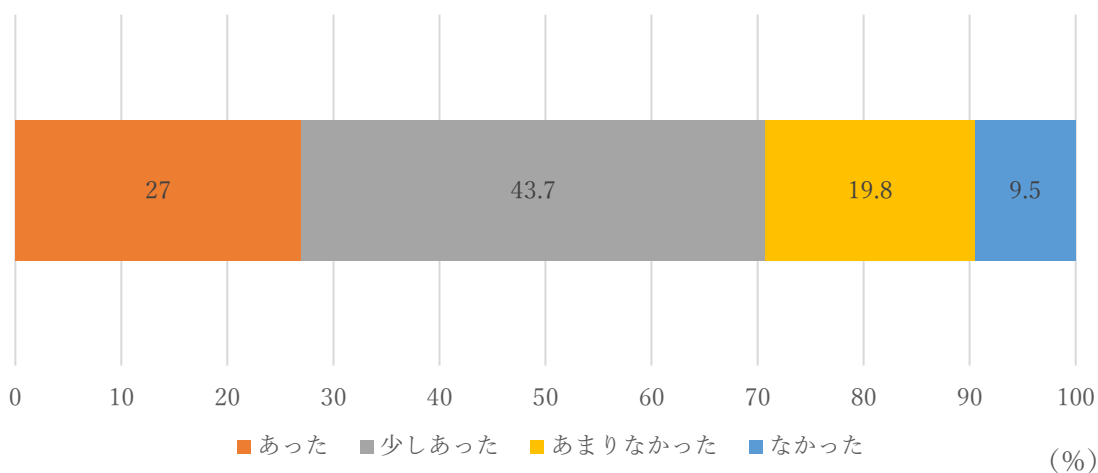
・休業中、90%近くの子供が「自宅」で過ごしていたことが明らかになった。一方、「児童育成センター、こどもの家」や「学校」等、子供が集まるような場所で過ごしたと回答した保護者の割合は、合わせて5.5%であった。

② 休業中の平日、お子さんは主に誰と過ごしたか？



・半数を超える子供は、保護者とともにお過ごしていた。一方で、4分の1近くの子供は、「子供のみ」で過ごしていたという実態が明らかになった。

③ 休業中、子供の家庭生活に不安等はあったか？



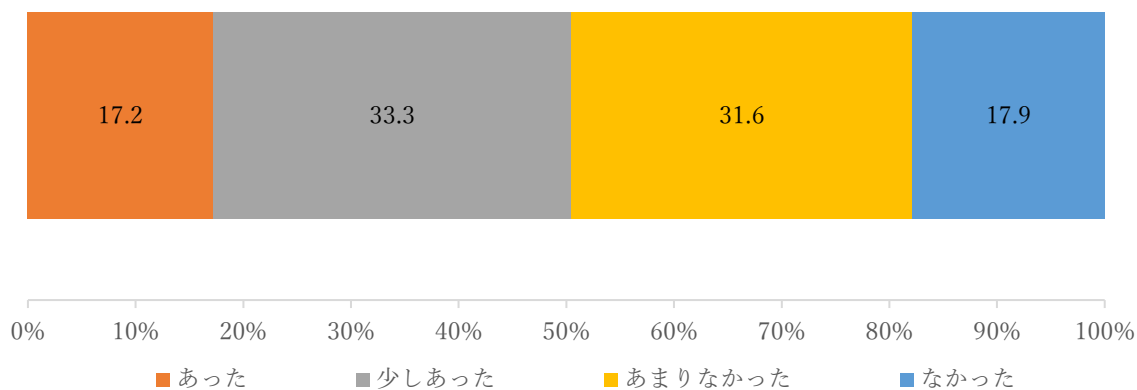
- ・休業中、子供の家庭生活に何らかの不安や悩みがあったかとの質問に対し、「あった」「少しあった」と回答した保護者の割合は、合わせて7割を超えていた。
- ・不安等は「なかった」と回答した保護者の割合は、約1割であった。

④ どんな心配や悩み等があったか？（複数回答）

調査対象	保護者
回答者数	1 9 4 5
生活習慣の乱れはないか	3 9 8
家庭内の感染防止対策は十分であるか	6 4
食事は十分にとれているか	6 8
SNS 等のトラブルに巻き込まれていないか	5 0
家庭学習は十分にできているか	4 4 9
子供だけの留守番で大丈夫であるか	1 8 0
その他	7 0

- ・休業中、保護者が抱えていた子供の家庭生活に関わる不安や悩み等の内容は、「家庭学習は十分にできているか」が最も多かった。次に多かったのは、「生活習慣に乱れはないか」で、この2項目を挙げた保護者の数が突出して多かった。

⑤ 学校再開後、学校生活に不安等があったか？



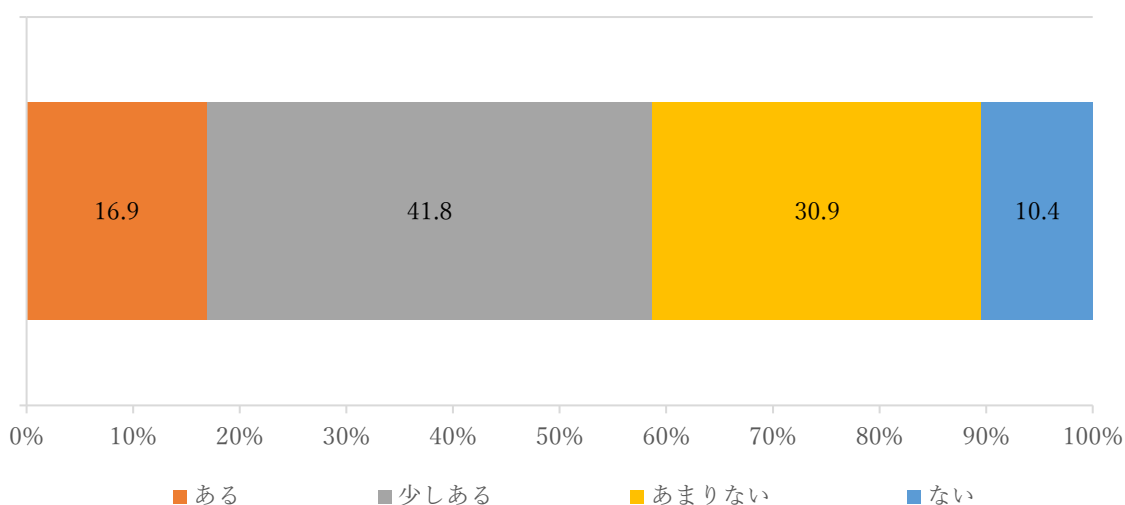
- ・学校が再開されてから、約半数の保護者が、子供の学校生活に何らかの不安や悩み等を抱えていたことが分かった。
- ・子供の生活に何らかの不安を抱えていた保護者の割合は、休業中（p.14 ③）より学校再開後には約2割減少している。

⑥ どんな心配や悩み等があったか？（複数回答）

調査対象	保護者
回答者数	1945
未履修分の学習内容は履修できるのか	742
学校の感染対策は十分か	450
子供同士の人間関係づくりはできるか	415
学校行事はできるのか	429
部活動は再開できるのか	234
大会やコンクールは実施されるか	180
その他	111

- ・学校が再開された後に保護者が抱えていた心配や悩み等の中で、最も多かったのは「未履修分の学習内容は履修できるのか」というものであった。次に多かったのは、「学校の感染対策は十分か」で、「学校行事はできるのか」が続いた。また、「子供同士の人間関係づくりはできるか」と回答した保護者も同数程度いた。

⑦ 今後の学校生活で何か不安等はあるか？



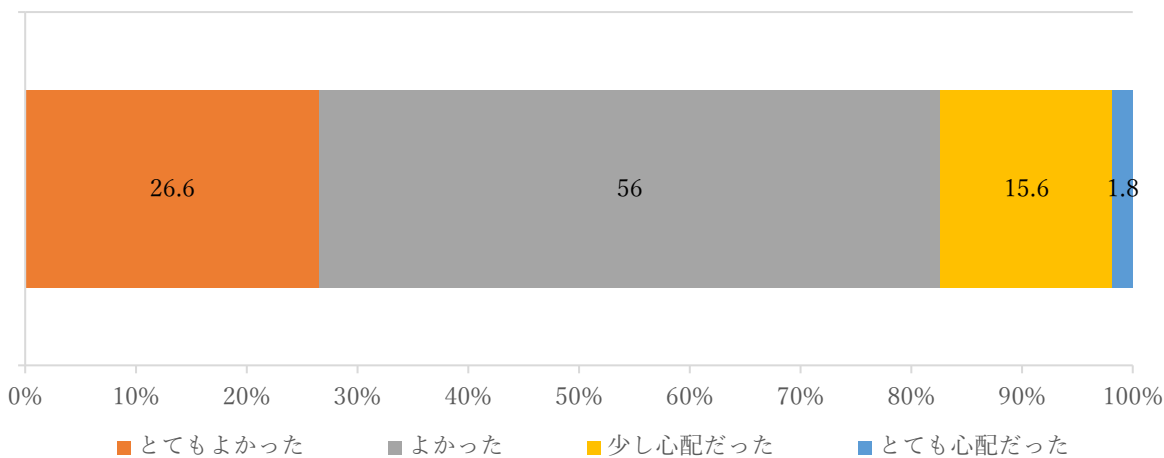
- ・今後の学校生活において、何らかの不安が「ある」「少しある」と回答した保護者の割合は、合わせて60%近くあった。
- ・何らかの不安等を抱える保護者の割合は、学校再開後（p15 ⑤）には約5割まで減少していたが、今後の学校生活のことを考えたときには若干増えた。

⑧ どんな心配や悩み等があるか？（複数回答）

調査対象	保護者
回答者数	1 9 4 5
未履修分の学習内容は履修できるのか	8 2 9
学校の感染対策は十分か	5 3 0
子供同士の人間関係づくりはできるか	3 9 8
学校行事はできるのか	4 9 8
部活動は再開できるのか	3 5 5
大会やコンクールは実施されるか	1 9 2
その他	7 9

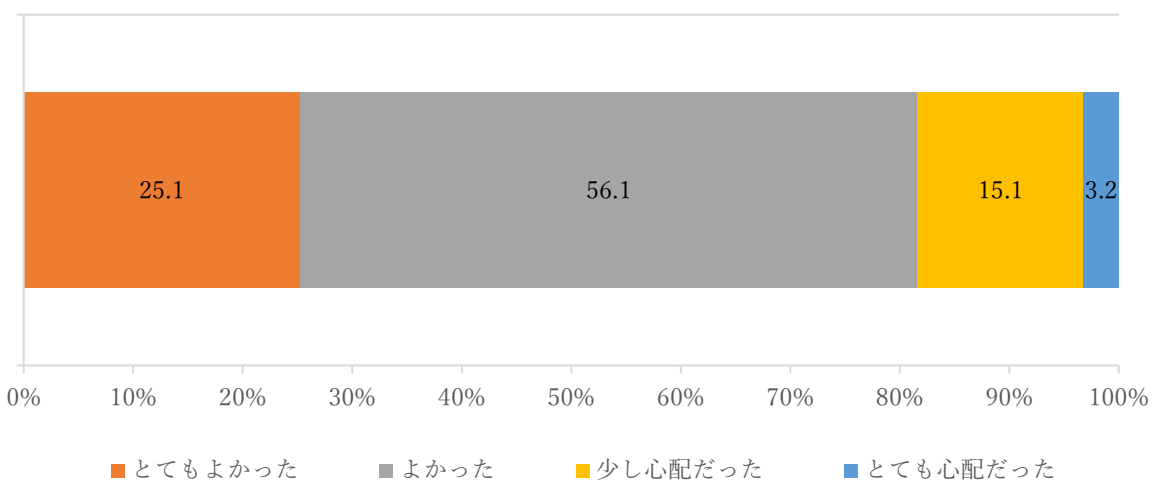
- ・今後の学校生活について、保護者が抱えている心配や悩み等の中で、最も多かったのは「未履修分の学習内容は履修できるのか」であった。次に多かったのは、「学校の感染対策は十分か」で、「学校行事はできるのか」が続いた。この順位は、学校再開後（p15 ⑥）での回答と同じであるが、多くの項目で不安を抱える保護者の数は増加した。
- ・「子供同士の人間関係づくりはできるか」と回答した保護者の数のみ、学校再開後（p15 ⑥）の頃と比べて減少した。

⑨ 県下で一番早く始めた分散登校をどう思うか？



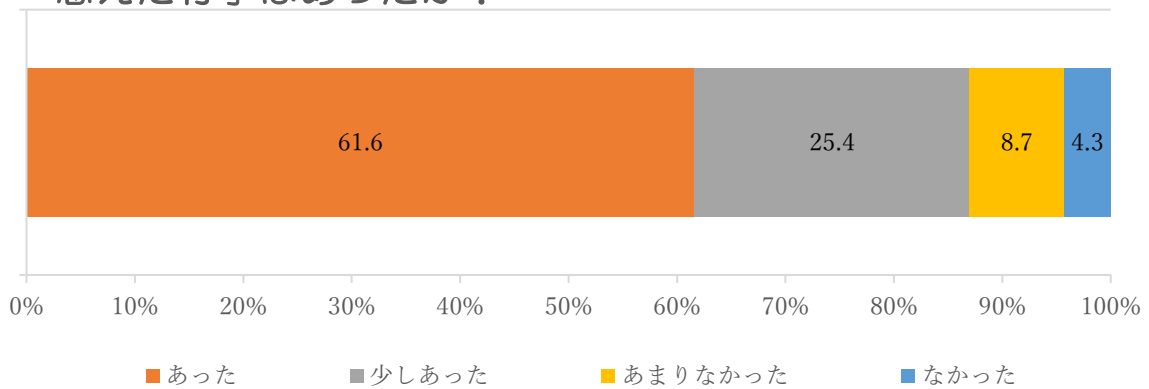
・子供の学びを保障するため、他市に先駆け、県下で一番早くから分散登校を始めたことについて、「とてもよかった」「よかった」と回答した保護者の割合は、合わせて 80% を超えた。

⑩ 部活動の大会の縮小開催や、学校行事の一部を感染対策を実施して開催したことは？



・子供の活躍の場を保障するため、部活動の大会等を縮小して開催したり、学校行事の一部を感染対策を実施した上で開催したりしたことについて、「とてもよかった」「よかった」と回答した保護者の割合についても、合わせて 80% を超えた。

⑪ 一部変更はあったが、実施してよかったと思えた行事はあったか？



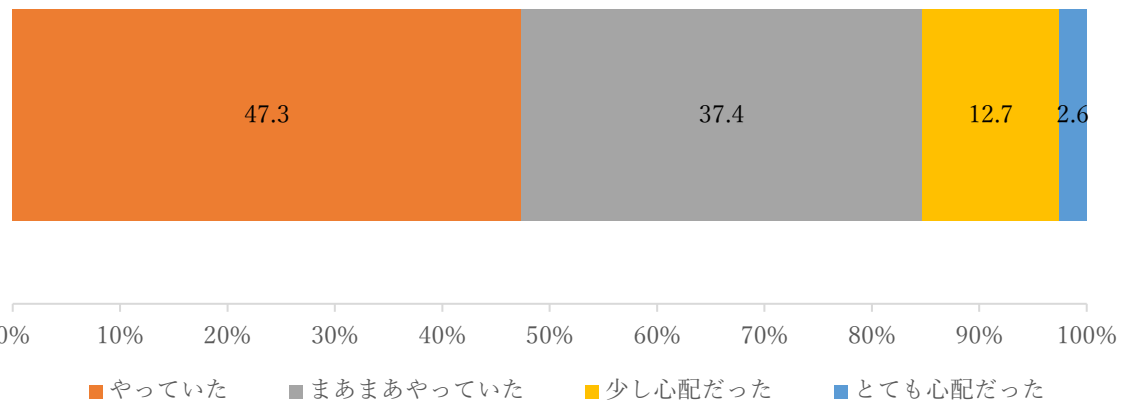
・90%近くの保護者が、一部変更はあったが実施してよかったと思えた行事が「あった」「少しあった」と回答している。

⑫ どんな行事をやってよかったと思えたか？（複数回答）

調査対象	保護者
回答者数	1945
運動会（体育大会）代替行事	1389
学芸会・文化祭（合唱コンクール）代替行事	471
授業参観代替行事	184
避難訓練	52
マラソン大会（長距離継走大会）代替行事	833
修学旅行	685
部活動の大会・コンクール	396
おかざきっ子展	162
理科作品展	27
社会科作品展	22
技術・家庭科作品展	36
定期的なテスト	255
その他	77

・やってよかったと思えた行事の中で、最も多かったのは、「運動会（体育大会）代替行事」で、「マラソン大会（長距離継走大会）代替行事」が続いた。さらに、「修学旅行」と回答した保護者が3番目に多かった。

⑬ 学校の感染防止対策をどう思うか？



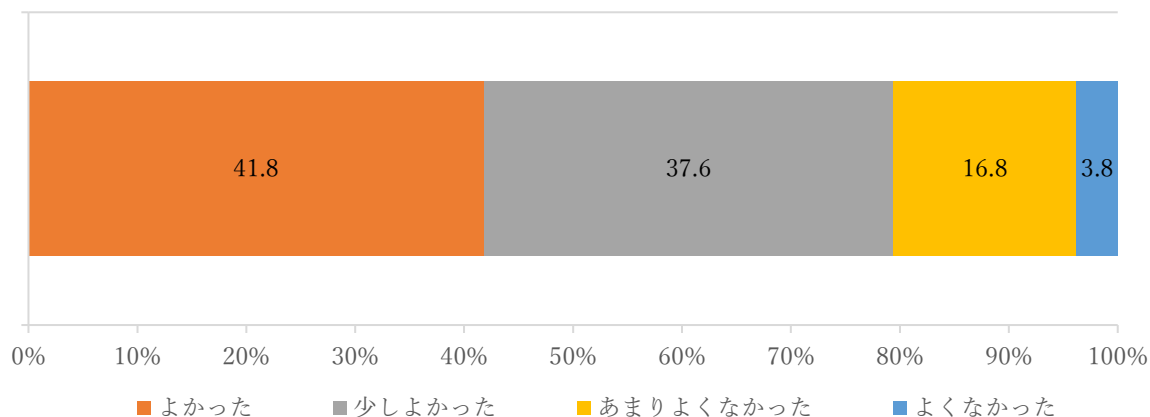
・約 85%の保護者が「やっていた」「まあまあやっていた」と回答していた。一方で、約 15%の保護者が「少し心配だった」「とても心配だった」と回答している。

⑭ どんな感染防止対策がよかったと思えたか？（複数回答）

調査対象	保護者
回答者数	1 9 4 5
マスクの着用や手洗いの徹底など、子供への指導が適切だった	1 3 8 1
ソーシャルディスタンスを確保する指導が行われていた	5 5 3
教室や子供が使用する器具等への消毒が適切になされていた	3 3 7
合唱や調理実習を控えるなど、授業の行い方に工夫がなされていた	4 7 6
給食の時間には、前向きのまま無言で喫食するなどの工夫がなされていた	8 4 4
終業式や全校集会などを放送で行う等、密にならない工夫がなされていた	8 9 5
授業参観や行事などで保護者が来校する際に、適切な配慮がなされていた	6 6 7
休校中の学びの保障に努めていた	1 9 5
その他	2 3

・学校の感染防止対策の中で、「マスクの着用や手洗いの徹底など、子供への指導が適切になされていた」と考える保護者が最も多かった。次に多かったのは、「終業式や全校集会などを放送で行う等、密にならない工夫がなされたこと」で、「給食の時間には、前向きのまま無言で喫食する等の工夫がなされていた」も高い評価を得た。

⑮ 夏休みが短くなってどう思ったか？



・80%近くの保護者から、夏休みが短くなって「よかった」「すこしよかった」との回答があった。この結果は、子供に対して行った同様の質問 (p6 ⑨) の結果と比べると、高い割合となった。

⑯ どんなことから「よかった」と思えたか？ (複数回答)

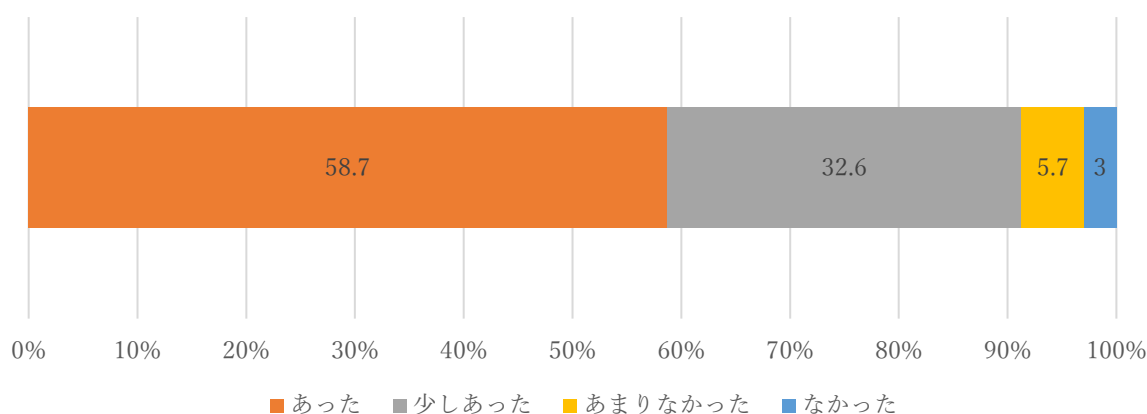
調査対象	保護者
回答者数	1 9 4 5
休校でできなかった授業を行うことができた	1 3 9 5
子供が友達と学校で会う時間が増えた	1 0 1 9
子供が先生と学校で会う時間が増えた	5 6 3
子供がエアコンが効いた部屋で勉強することができた	3 5 2
その他	6 7

・「よかった」と回答した保護者のうち、その理由として最も多く挙げられたのは、「休業でできなかった授業を行うことができた」であった。次に多かったのは、「子供が友達と学校で会う時間が増えた」という回答だった。

(3) 教職員調査

有効回答数 230名

① 休業中、学校再開に向けて不安等があったか？



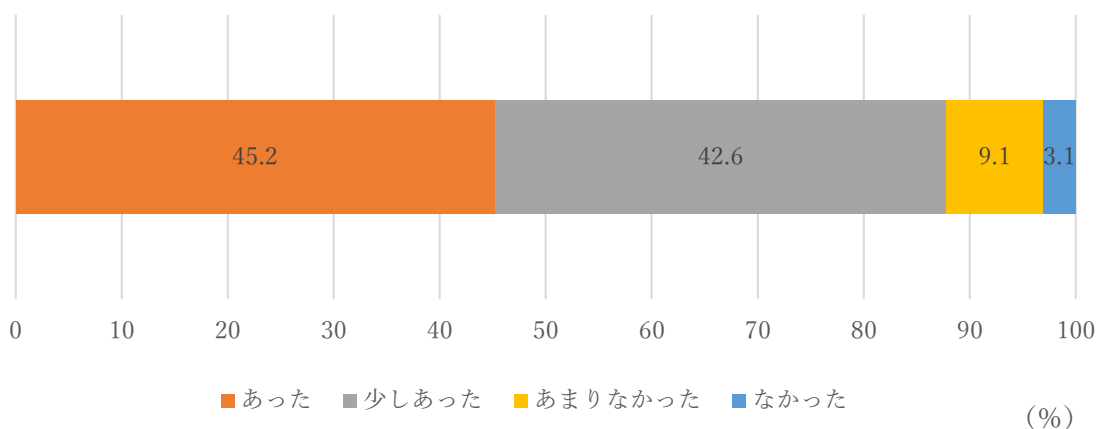
・休業中、学校再開に向けて何か不安や悩みが「あった」「少しあった」と回答した教職員の割合は、90%を超えた。

② どんな不安や悩みがあったか？（複数回答）

調査対象	教職員
回答者数	230
学校の感染対策は十分か	155
未履修分の学習内容は履修できるのか	164
学校行事はできるのか	167
部活動は再開できるか	83
子供同士の人間関係づくりはできるか	135
その他	12

・休業中、教職員が抱えていた不安や悩みの中で、最も多かったのは「学校行事はできるのか」であった。ほぼ同数で、「未履修分の学習内容は履修できるのか」が続き、「学校の感染対策は十分か」との項目も上位に入った。

③ 学校が再開してから不安等はあったか？



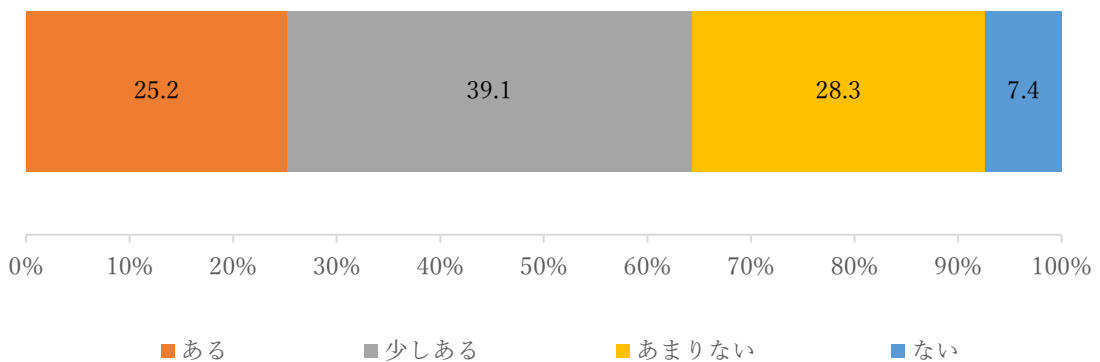
・学校が再開してから不安や悩みが「あった」「少しあった」と回答した教職員は90%近くいた。この結果は、教職員へ休業中の不安等を聞いた質問 (p21 ①) の結果と比較すると、ほとんど変わっていないことが分かった。

④ どんな不安や悩みがあったか？（複数回答）

調査対象	教職員
回答者数	230
学校の感染対策について	140
授業の進め方や学習内容について	171
学校行事について	144
部活動の練習や大会・コンクールについて	96
子供同士の人間関係について	90
その他	11

・学校再開後、教職員が抱えていた不安や悩みの中で、最も多かったのは「授業の進め方や学習内容について」の項目であった。次に多かったのは「学校行事について」であり、休業中に教職員が抱えていた不安や悩みと比べて、その数が逆転した。
 ・休業中の不安や悩みを抱える教職員の割合は減少したものの、「授業の進め方や学習内容について」「部活動の練習や大会・コンクールについて」では、数が増加した。

⑤ 今、何か不安や悩みはあるか？



・今、何か不安や悩みが「ある」「少しある」と回答した教職員は64.3%であった。学校再開後（1～2か月）に不安を抱えていた教職員の割合よりも、20%以上減少したものの、約65%の教職員は、何らかの不安を抱えたままであったことが分かる。

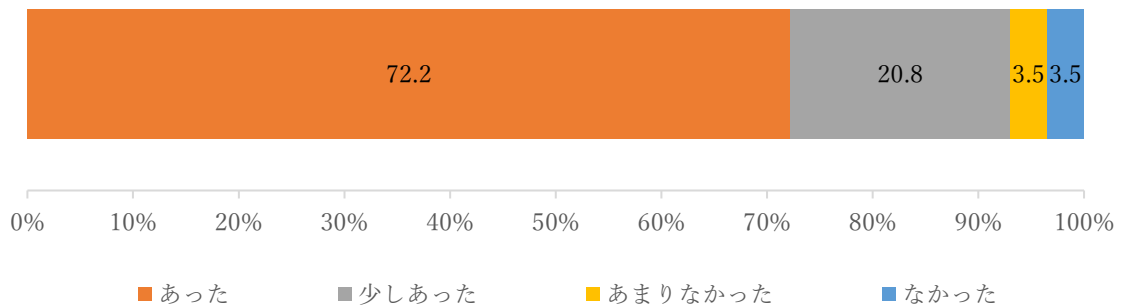
⑥ 今、どんな不安や悩みがあるのか？（複数回答）

調査対象 回答者数	教職員 230
学校の感染対策について	89
授業の進め方や学習内容について	46
学校行事について	98
部活動の練習や大会・コンクールについて	61
子供同士の人間関係について	47
その他	12

・教職員が、今、抱えている不安や悩みの中で、最も多かったのは「学校行事について」であった。続いて、「学校の感染対策について」「部活動の練習や大会・コンクールについて」の順に多かった。

・休業中（p19 ②）や学校再開後（p21 ④）の結果と比べて、どの項目についても減っている。中でも「授業の進め方や学習内容について」の項目が大幅に減っている。

⑦ 一部変更はあったが、やってよかったと思えた行事はあったか？



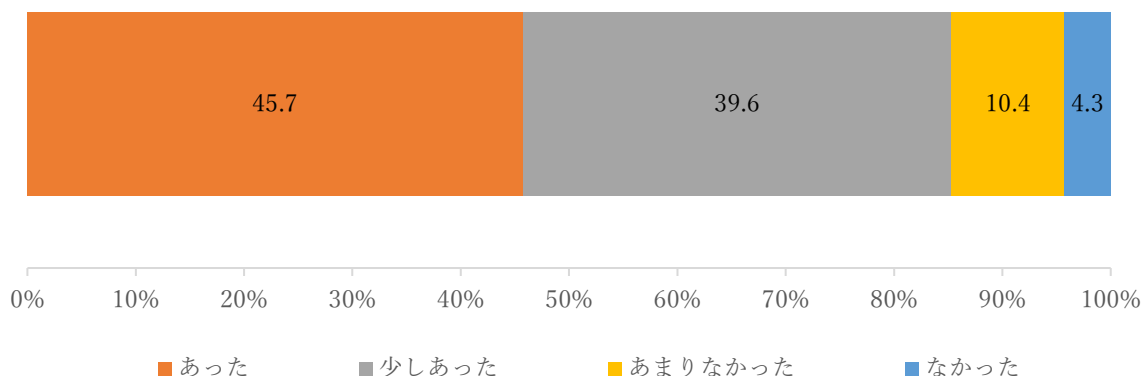
・一部変更はあったが、やってよかったと思えた行事が「あった」と回答した教職員の割合は70%を超えている。「少しあった」と回答した教職員の割合を合わせると、90%を超えた。

⑧ どんな行事をやってよかったと思えたか？（複数回答）

調査対象	教職員
回答者数	230
運動会（体育大会）代替行事	192
学芸会・文化祭（合唱コンクール）代替行事	91
授業参観代替行事	12
避難訓練	37
マラソン大会（長距離継走大会）代替行事	111
修学旅行	126
部活動の大会・コンクール	94
おかざきっ子展	25
理科作品展	12
社会科作品展	11
技術・家庭科作品展	12
定期的なテスト	31
その他	15

・教職員がやってよかったと感じた行事は、「運動会（体育大会）代替行事」「修学旅行」「マラソン大会（長距離継走大会）代替行事」の順で、保護者の意識（p18 ⑫）と似たような傾向が見られた。

⑨ 休業中、子供の家庭生活で不安はあったか？



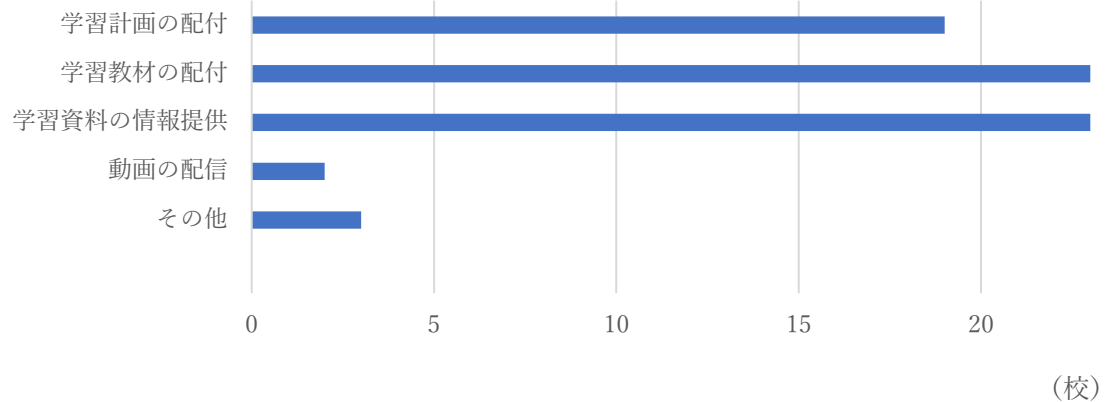
・休業中における子供の家庭生活について、何か不安や悩みが「あった」「少しあった」と回答した教職員は80%を超えた。

⑩ どんな不安や悩みがあったのか？（複数回答）

調査対象	教職員
回答者数	230
生活習慣の乱れはないか	180
家庭内の感染防止対策は十分であるか	59
食事はとれているか	50
SNSトラブル等に巻き込まれていないか	87
家庭学習は十分にできているか	141
子供だけの留守番で大丈夫であるか	69
その他	3

・休業中の子供の家庭生活について、教職員が抱えていた不安や悩みの中で、最も多かったのは「生活習慣の乱れはないか」で、「家庭学習は十分にできているか」が続いた。
 ・このことは、同様の質問に対して保護者が回答した結果と逆の順番となった。また、「SNSトラブル等に巻き込まれていないか」と心配する教職員の数は、保護者の数（p14 ④）よりも多い。

⑪ 子供の学びを保障する取組は？（24校：複数回答）



- ・子供の学びを保障する取組を24校の校長に聞いたところ、「学習教材の配付」と「学習資料の情報提供」が最も多く、23校が実施していた。
- ・「学習計画を配付した学校」は19校あり、学校の取組としては、多くの学校がこれらのことを実施していたことが明らかになった。

8 調査の総括

段落ごとに、どの調査をもとに判断したか記載

例：児童生徒調査①⇒子①、保護者調査①⇒保①、教職員調査①⇒教①

(1) 臨時休業中や学校再開当初の不安感とその変化

約2か月半の臨時休業の間、ほぼ半数の子供たちは、特につらさを感じていないことが分かった。その一方で、子供たちの中には、「授業はどうなるのか」、「どうやって勉強すればいいのか」等の不安を抱える者もいた。また、中学生になると、「部活動の練習や大会はできるのか」といった不安感も抱えていた。【子②】

保護者については、「生活習慣の乱れはないか」、「家庭学習は十分にできているか」等、子供の生活と学習の両面から不安を感じていたことが明らかになった。【保④】

教職員については、「学校行事はできるのか」、「未履修分の学習内容は履修できるのか」、「学校の感染対策は十分か」等、不安の内容は、多岐にわたっていた様子がうかがわれる。加えて、子供の家庭生活を心配する教職員は8割を超えていた。心配事の内容として「生活習慣の乱れ」が最も多かったのは保護者と同じであったが、「SNS等のトラブル」を心配する教職員は、保護者に比べて多いことが分かった。【教②・⑩】

学校再開後1～2か月の困り事を子供に調査したところ、子供が抱える不安感は臨時休業中よりも減少した。これは、学校で友達や先生に会うことができたことで、安心感が高まったためであると考えられる。また、学校が再開されるまでの間に、授業や感染対策等の準備を進めることができたことや、分散登校で段階をおって再開できたことも、子供の安心感につながったと考えられる。【子④】

学校再開にあたり、教職員が抱える不安感は、臨時休業中の割合より減少したものの、保護者に比べて高かった。これは、これまで経験したことの無い対応を迫られ、多くの教職員が不安感や緊張感をもち続けていたからであると思われる。また、こうした不安は、学校再開後も継続している。これは、多くの教職員が、子供たちが安心して授業を受けられるよう、感染対策を施しながら学びを保障する方策について、試行錯誤していたためと思われる。【教③・④】

(2) 学校の取組（授業・感染対策・学校行事）

多くの保護者は、「未履修分の学習内容は履修できるのか」という点について心配していた。各学校では、未履修分の学習内容を履修するため、1日の授業数を1コマ増やして7時間授業を実施したり、学校行事を精選したりすることで、臨時休業でできなかった授業時間を確保した。その結果、全ての学校が令和2年度中に履修でき、次年度への積み残しはないことが、別の調査で明らかになっている。しかし、多くの保護者が、2月になっても学習内容を全て履修できるかどうか心配していた。学校は、学習状況等を保護者に周知する取組をもう少し充実させる必要があったと思われる。【保⑥・⑧】

また、多くの保護者は、「学校の感染対策」について心配していた。学校の感染対策については、「マスクの着用や手洗いの徹底など、子供への指導が適切だった」をはじめとして、約85%の保護者から高い評価を得ることができた。実際に学校内における子供同士の感染は確認されておらず、クラスターの発生も現時点でないことから、学校が実施した感染対策は、一定の効果があつたと考える。【保⑥・⑬・⑭】

子供たちは、コロナ禍により様々な行事について我慢を強いられてきた。学校は、子供たちが少しでも明るい学校生活が送れるようにと、感染防止対策を施しながら実施方法を変更するなどして、可能な範囲で学校行事を開催した。その結果、「やってよかった」と思えた行事として、小学生では、「運動会」や「マラソン大会」等、屋外で行われる体育的行事を挙げ、中学生では、体育的行事と文化的行事がほぼ同数だった。このことから、行事を通して味わう充実感や達成感は、実施方法や開催時期を変更しても同様に大きいことが分かった。また、「修学旅行」については、調査した子供のほとんど

が、「よかった」と回答し、子供の心に残る大切な行事であり、最も重視すべき行事の一つであることが分かった。さらに、これまでの学校行事を見直し、子供たち自身が計画や立案を進めることで、コロナ禍だからこそ行事を行う意義や価値が上がったものもある。【子⑧】

この結果は、保護者や教職員への調査でも同様だった。【保⑫、教⑧】

さらに、その他の学校行事についても、感染拡大防止対策のため、学校行事等の一部について実施方法等を変えて開催したり、行事の内容によっては中止したりした。このことについて、8割を超える保護者の方から「とてもよかった」「よかった」との評価をいただいた。【保⑩】

(3) 岡崎市の施策（分散登校・部活動の大会・夏休みの短縮）

子供たちは、臨時休業中に「勉強や授業のこと」に最も多くの不安感を抱えていた。本市は、子供の学びを保障するため、県下で一番早く分散登校を実施した。この点に関して、学校再開後に「先生とゆっくり話したり相談したりすることができなかった」と回答した子供は少なかった。これは、1/4から1/2へと段階的に分散登校を始めたことによって、教師が一人一人の子供と向き合う時間が確保できたからであると思われる。【子②・⑤】

また、子供の様子を感じた多くの保護者は理解を示し、約85%の方から「とてもよかった」「よかった」との評価をいただいた。【保⑨】

さらに、教育委員会は、子供にとって学校生活における大きな目標の一つである部活動の大会やコンクールを、感染防止対策を講じて開催する方法を校長会と協議を重ねた。そして、実施した場合のリスクや、中止した場合の子供たちの落胆ぶり等を少しでも軽減するため、「岡崎市小中学校における新型コロナウイルス対応ガイドライン」を策定した。ガイドラインには、市内の感染状況に応じた大会実施の有無や開催方法等をまとめ、教職員の共通理解を図るとともに、子供や保護者に伝えた。全国大会をはじめ、日本中学校体育連盟や愛知県中小学校体育連盟が主催する大会等が、相次いで中止となった。しかしながら、本市においては、感染状況を慎重に見極め、対策を実施し、規模を縮小した上で小学校の「球技大会」「水泳大会」「陸上大会」、中学校の「市長杯」「新人戦」を開催した。この点について、8割を超える保護者の方から肯定的な評価をいただいた。【保⑩】

夏休みの短縮について、保護者は、「臨時休業でできなかった授業ができた」、「友達と学校で会う時間が増えた」等の理由から、8割近くが肯定的な回答をした。反面、子供については、学年が上がるほど「自由な時間が減った」ことを挙げ、肯定的に捉えている子供は半数以下で、保護者の意識とは逆の結果であった。【保⑮・⑯、子⑨・⑪】

(4) 子供の自立と共生

子供たちは、学校再開後に最も困ったこととして、「学校の行事がなくなったり、やり方が変更されたりした」ことを挙げていた。また、小学4～6年生と中学生の中には「今までのような授業ができない」との困り感を訴えた子供も多くいた。これは、日頃から学校行事やグループ学習など、友達との関わりながら成長したり学んだりすることを願う子供が、一定数いたためであると考えられる。【子⑤】

また、子供たちは、学校再開後に「いいな」と思ったこととして、「友達に会えるようになった」、「学校の行事が楽しかった」等を多く挙げている。この結果からも、子供たちの多くは、普段から学校行事や学習で友達と関わることを楽しみにしていることが分かった。【子⑦】

一方で、学年が上がるほど、自分から計画を立てて進んで勉強できた子供の割合が減っている。この結果は、本市に限らず全国的な傾向であると思われる。現代の子供たちが抱える課題の一つでもある。将来を見据えたとき、子供たちに未知の困難に対して主体的に解決できる資質・能力を育むことが必要であると考えられる。【子⑱】

(5) 今回の調査について

私たちは、これまでの学校教育における長い歴史の中で、「パンデミック」と呼ばれる感染症が、これほどまでに大きな影響を与えたことを経験したことはなかった。それゆえ、今回のような子供の動揺、保護者の心配、教職員の不安等が見られることはなかった。本調査は、それらの実態や状況を把握できたことには大きな価値があると考えられる。

本調査では、子供たちに、今の学校生活における困り事や臨時休業中における体調不調をアンケートした。しかし、平常時における子供の困りごとや体調不良の様子を細かく把握した資料等が存在していない。そのため、本調査で明らかになった数値等が、新型コロナウイルス感染症だけの影響であるのか、定量的に分析することができない。【子⑥、⑲・⑳】

また、調査にあっては、質問項目や選択肢について何度も検討を重ねた。しかし、子供へアンケート調査する際には、より幅広い角度から実態等を把握できる質問内容を挙げる必要があった。さらに、質問項目に「つらさ」、「困ったこと」、「不安」等、様々な文言を用いていた。そのため、子供が回答する上で質問ごとの統一感が十分に図られず、調査結果を読み替えて比較することがあった。【子②・④・⑭】

しかし、本調査で得た様々なデータは、将来、大災害やパンデミック等の事態に陥った場合、一つの基礎資料となることを期待している。

9 今後の展望

●一斉臨時休業による影響について

文部科学省は、「今後、一斉休業の実施は考えていない」との方針を打ち出した。したがって、今回問題となった「学習内容の未履修」や「生活習慣の乱れ」等に関わる保護者や教職員の不安は、今後はなくなるものと考えられる。また、一部心配な家庭もあった子供の食事に関しても、問題は解消していくものと思われる。

●子供の学びの保障について

コロナ禍の中、国の情報端末整備などの事業も追い風となり、本市では、岡崎版 GIGA スクール構想を積極的に進めることができた。その結果、タブレット端末の子供一人一台の環境が整い、その利用が着実に成果を上げている。今後、新たな感染症等により、同じような状況下になった場合でも、動画配信等をはじめとして、オンライン学習のさらなる進展が期待できる。

●主体性を伸ばす教育の実現について

これまでの一斉授業から脱却し、子供たちが、自ら考え、判断し、行動することのできる個別最適化された学びを実現する必要がある。そのため、部活動の在り方を見直したり、日課表を改めたりする等して、主体的な活動ができる自由度の高い時間を生み出す新たな学校をデザインすることで、子供たちの主体性を育んでいく。

●子供、教師の経験値の高まりについて

新しい生活様式が定着しつつある今、コロナ禍における学校生活の在り方等が具体的な姿で明らかになってきた。今回の調査結果は、子供たちの心をケアすることや感染対策を施す上で、大きな力となる可能性がある。教師は、今回の経験や学びを生かすことで、今後起きるかもしれない未曾有の災害や未知の感染症等に対して、より適切な対応ができると考える。

おわりに

2020年1月、神奈川県において、日本で初めて新型コロナウイルス感染症の患者が見つかりました。そして、その感染が全国に広がるまでの時間は、短いものでした。そのため、全国の多くの学校が、子供たちをケアする環境が整わないまま、この感染症と向き合うことになりました。こうした状況により、子供たちだけでなく大人たちも、不安を抱えることになりました。

そうした中、岡崎市教育委員会と各学校は、子供たちの心を安定させることを最優先に考え、家庭や地域の方々と連携を図りながら、その時々で、最善の策を考えて対応してきました。この結果、平時には見過ごされていた学校教育の諸問題を見直しながら、新しい学校生活スタイルが生み出されました。本調査を実施することにより、非常時における子供たちや大人の心情の変化とともに、新しい学校生活スタイルにおける成果も記録に残すことができました。

最後に、本調査に御協力いただいた生徒や保護者の皆さん、学校関係者の方々に感謝申し上げます。多く方のお力添えにより、目に見えない新型コロナウイルス感染症の影響による不安や悩み、それを解消するための要素等を数値として示すことができました。新型コロナウイルス感染症の収束の兆しが、見えない状況ではありますが、子供たちの未来のために、教育の歩みを止めることはできません。どのような状況下においても、子供たちの笑顔を守るため、本調査結果を生かし、安心して学べる環境、仲間とともに楽しく学べる場が、各学校において確保されることを願っています。さらに、今後、未知の感染症等が発生した時にも、本調査結果とこれを基にした対応が、適切に行われることを信じています。